

29

近代初期の医学書誌目録における 「医学学習指南書」の記載について

澤井 直

順天堂大学医史学研究室

初期近代の西欧では医学学習者を対象とした「医学学習指南書」が出版されていた。指南する内容は1) 読書ガイド(各学習段階で読むべき書籍, 読むべき順序), 2) 医学の特質(学問・芸芸としての医学の特質に基づいた学習すべき分野), 3) 態度(生活や学習に臨む際のあるべき態度の提示)など多岐にわたるが, いずれも学習者を助けることを目的として書かれていた。16世紀から17世紀初頭までに11人の著者による12冊の医学学習指南書を確認できているが, 他の類書の存在や同時代におけるこれらの書籍の受容などに関して不明な点が多い。本発表では, 初期近代に出版された医学書誌目録において医学学習指南書がどのようなジャンルとして把握されていたかを調査した。

医学書誌目録の出版はSymphorien Champier(1506)から始まり, Otto Brunfels(1530), Remaclus(1541), Wolfgang Jobst(1556)の書誌目録が出版されるが, ゲスナー(Conrad Gesner, 1516-1565)による古今のあらゆる著作家の書籍を集めた『万有書誌』(1545)以降, 医学書誌目録に記載される分量が激増する。Pascal Le Coq(1590)が本格的な医学書誌目録の嚆矢となり, 18世紀半ばまでにIsrael Spach(1591), Johannes Schenck von Grafenberg(1609), Jan Antonides van der Linden(1637), Cornelius a Beughem(1681), Martin Lipen(1679), Jean Jacques Manget(1731), Christoph Wilhelm Kestner(1746)などの医学全般の書誌目録が出版された。解剖学や外科や化学などの特定の分野に関する書誌目録も出版されている。

各目録で既知の12冊の医学学習指南書の記載の有無を確認したところ, 目録によって遺漏もあるが, すべての指南書が記載されていた。これらの目録の多くは著者ごとに著書を提示した目録であり, 著者名をアルファベット順や時代順に並べていた。

少数ながら, Spach『医学著者一覧』(1591), Lipen『真正医学書誌』(1679), Kestner『医学書誌』(1746)は主題ごとに医学書を分類していた。また, 同時期の最も広範な目録であり, 作者の死後も版を重ねたLinden『医学書籍について』(1637)は著者別に記載しているが, 末尾に主題ごとに著者名の一覧が挙げられている。

これらの4点の主題別目録において既知の医学学習指南書はそれぞれ下記の項目の下に分類されていた。

- [1] Spach: ガレノスの要約, 医学について, 医学に必要なこと
- [2] Linden: 学習, 著作を読む順序, 学習法, 徳
- [3] Lipen: 学習法, ヒポクラテスを読む順序, 健康な生活, 医学の学習, 医師に必要なこと
- [4] Kestner: 医学の方法書

[1]から[3]では複数の項目に分かれていたが, Kestnerでは一つの項目にまとめられていた。Kestnerの頃には医学書の一ジャンルとして認められていたことが示唆される。

さらに, これらの書誌目録の記載からさらに別の「医学学習指南書」の存在が確認できた。

Johannes Crato『医術の梗概』(1565)

Hieronymus Montuus『若者のための書』(1556)

Jacobus Horstus『医学を学ぶ際の障害とその対処法についての』(1584)

Jacobus Pons『医学, あるいは方法と最良の道筋』(1600)

また, 目録には17世紀以降の多数の類書が記載されており, 初期近代の医学学習指南書の実態の解明のための有益な情報源があることが明らかになった。

〈本研究はJSPS科研費25350386の助成を受けたものです。〉